

# Victory

NO.10

令和7年2月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館

\*学校HP> 学校図書館> #図書館の日常随時更新中

睦月、如月…2月です。

新しい年が始まり、一ヶ月が過ぎました。

この間に高校3年生は、大学入学共通テストがあり、今それぞれの具体的な目標に向かってラストスパートをかける姿が図書館でも見られます。体調管理に気をつけて、二次試験で全力を尽くせますように。

さて、中学生・高校1,2年生にとっての3学期は、1年の振り返りとステップアップへの準備段階の時期ですが、同時に意外と読書をするのにもいい時期だと思います。

好きな作家の作品を読破するもよし、新たなジャンルに挑戦するもよし、きみろんやSTEAMジュニアのタネを見つけに蔵書の林を散策するもまたよし…10代のこの時期に活字に親しむ時間を自分の24時間に組み込みましょう。

あなたが足を運ぶたびに、「あ！また変わってる！」と新たな発見と出会いが待つ図書館をめざして、2025年も成長していきたいと思います。



高3生のみなさんへ  
図書館からの大切なお知らせ

本の貸出は1月31日(金)で終了しました。  
未返却の人は早急に返却を。

ただし2次対策用の図書貸出は可能です。最終返却は2月21日(金)となります。それ以降は相談を。



## 図書委員会企画展示コーナー

### ☆「本の福袋」作りました！

1月の企画として行いました。

冬の店頭購入で入れた本の中から図書委員が自分でテーマ設定をして選んだ3冊の本を福袋に入れ、カードを添えて、利用促進を図りました。

袋の中身は、本だけでなくちょっとしたプレゼントも入っているお得感満載の福袋です。

1月21日(月)からセッティング。福袋の数は、23。画像は途中経過のものです。

カードを読んでどんな本が入っているか想像して借りるのも、いつもと違う本との出会いがあり楽しんでもらえたのではないのでしょうか。



### ☆「バレンタイン&ホワイトデー」



各種委員会で2つのコーナー展示を作成しました。

2月と言えばやはりバレンタイン。今回は、3月のホワイトデーとリンクさせた関連図書を展示しています。お菓子作り、チョコレート製造、原産国に関する本、小説など多角的視点からテーマを捉えています。

### ☆「純文学を読み！」

国語の教科書でお馴染みの芥川・夏目・太宰・森…作品を知らない人はいないはず。近代文学の巨匠とされる作家の作品と近年芥川賞を受賞した作品も同時に展示しています。

「そもそも純文学ってなに？」と思ったあなた、この機会に作品世界と併せてその定義を紐解いてみましょう。





# 授業で図書館を活用する

## 中2 感性：「読書を楽しむ」POP 作品集作り

読書という行為は、その量や頻度は別として日常生活において当たり前に行われています。

一冊の本を通して、様々なことを感じるわけですが、案外その時の感動を心に秘めたまま日々を過ごすというのが当たり前になっています。

そのうえで、授業を通して「相手に伝える手段」を学ぶ機会があることは、自分の引き出しが一つ増える願ってもないチャンスだと思います。

さて、昨年8月にPOP作成についてのレクチャーを図書館として行いましたが、完成作品を図書館の成果物資料としていただきました。

カウンター横のコーナーに本と一緒に展示しています。力作揃いの作品ばかり。POPを通して、新たな出会いが待っています。必見！



## 棚からひとつかみ「ア・ラ・カルト」

今回は、それぞれの書架からランダムに「ひとつかみ」した本を紹介します。



『ミライの授業』 滝本哲史著（講談社）159p

私たちはなぜ学ぶのだろう？…この問いは、様々な場面で投げかけられて久しいが改めて考えるとなぜなんだろう、答えは一つではないことはなんとなくわかる。本書は5つの切り口からそれぞれの答えが見出される。

中から一つ紹介。「クリミアの天使」といわれた看護師としてのナイチンゲールと「統計学」の関係は、非常に興味深い。ぜひ、読んでほしい。



『ゆびさきに魔法』 三浦しをん著（文藝春秋）

ネイルサロンが舞台のお仕事小説。

月島美佐はネイルサロン『月と星』を営むネイリスト。一人ひとりの客に合わせて心を込めてネイルをするそんなある日、隣接する居酒屋の大将の巻き爪の応急処置をしたことから、美佐の日常は少しずつ変化していく。それまで関わることのなかった人々との出会いを通して、今日も美佐は一人ひとりの爪に魔法をかけていく。もちろん、しをん節炸裂！今回も笑いあり、涙ありの小説。

『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』  
川内有緒著（集英社インターナショナル）707.9カ  
あなたは美術館で絵画を鑑賞するとき、どんなことを意識していますか？本書は、著者が全盲の白鳥さんと一緒に美術鑑賞をした経緯をまとめたノンフィクションです。全盲でどのように鑑賞を？…白鳥さんは同伴者の目線や感性を通してその作品と対峙します。つまり時代背景や作品概要ではなく、作品から感じたありのままの言葉を楽しむそうです。時に突拍子もない感想は、健常者である同伴者自身の作品への気づきになっていることも興味深く、「観る」ことについて考えさせられます。

本書は、物事に対する「こうあるべき」という既存概念を取り払ってくれる一冊です。なお、本書の特設サイトもあるので興味のある人はQRコードからどうぞ。



『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』特設サイトはこちらから↓

